



名古屋大学 予防早期医療創成センター 第13回ワークショップ

<https://www.pme.coe.nagoya-u.ac.jp/conference20250131/>



日時：2025年1月31日(金)
10:30～17:00
意見交換会
17:15～19:00

会場：名古屋大学
野依記念学術交流館 2階
カンファレンスホール

名古屋市地下鉄 名城線  名城線
名古屋大学駅 2番出口より徒歩7分

問い合わせ先

名古屋大学 予防早期医療創成センター
URL <https://www.pme.coe.nagoya-u.ac.jp/>
〒464-8601 名古屋市千種区不老町
名古屋大学
ナショナルイノベーション・コンプレックス (NIC) 5F
TEL・FAX: (052) 789-5499
E-mail: PME事務室
kou-kyoten@pme.coe.nagoya-u.ac.jp

オンライン視聴についての問い合わせ先
urabe.kks@gmail.com

参加方法

HP又は下記QRコードから必要事項を
御記入の上、登録下さい。

- 1) ご所属/役職 2) 氏名
- 3) メールアドレス
- 4) 昼食要否 (要事前申込)
- 5) 意見交換会参加の有無
(会費制2,000円)



www.pme.coe.nagoya-u.ac.jp/entry/

【Web視聴】

HPオンライン視聴申し込みサイト又は
下記QRコードから、必要事項を御記入
の上、登録下さい。

- 1) ご所属/役職 2) 氏名
- 3) メールアドレス

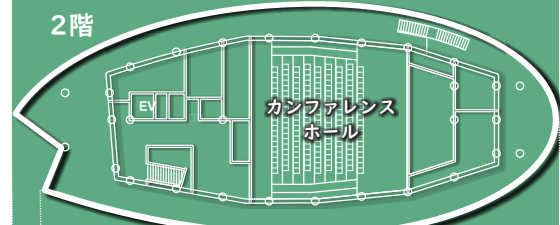
尚、会場へのご質問が頂けま
せんので予めご了承ください。



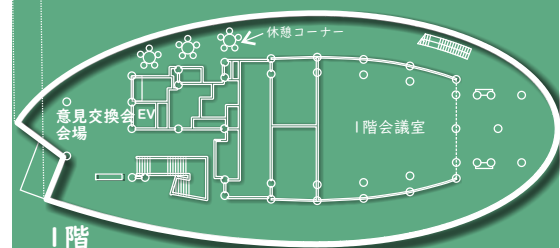
キャンパスマップ

野依記念学術交流館

2階



1階



主催 名古屋大学予防早期医療創成センター



プログラム

10:30-

開会 10:30-10:35

丸山 彰一 予防早期医療創成センター長 名大附属病院長 医学系研究科 教授
木村 宏 名古屋大学大学院医学系研究科長 教授

招待講演 10:35-11:45

コロナ禍：我々は何を体験したか、何を体験しようとしているか

日本医療研究開発機構 (AMED) 先進的研究開発戦略センター長
濱口 道成 (はまぐち みちなり) 氏

昼休憩 11:45-13:00

13:00-

パネルディスカッション 13:00-16:40

パネル1 13:00-14:10 モデレーター 予防早期医療創成センター 特任教授 吉田 安子 コミュニティファーマシーが拓く次世代の予防早期医療システム

名古屋市立大学 薬学研究科 臨床薬学教育研究センター 教授 舘 知也 氏
株式会社 ユタカファーマシー 薬剤師ソリューション部 調剤教育課長 樋上 彰子 氏
株式会社 あまの創健 営業本部長 山本 顕博 氏
一般社団法人 日本セルフケア推進協議会 事務局長 加藤 良仁 氏

パネル2 14:15-15:25 モデレーター 予防早期医療創成センター 准教授 大山 慎太郎 スマートセンシングによって解明する生体ダイナミクス

名古屋大学 大学院工学研究科 先進プロセス工学 准教授 藤原 幸一 氏
産業技術総合研究所 センシングシステム研究センター 竹井 裕介 氏
名古屋大学 大学院医学系研究科 特任教授 下田 真吾 氏
豊田合成株式会社 新価値事業本部 主監 藤原武史 氏

パネル3 15:30-16:40 モデレーター 予防早期医療創成センター 教授 松本 健郎 健康・医療と次世代情報工学

メタデータ株式会社 代表取締役社長 野村 直之 氏
国立情報学研究所 教授 山田 誠二 氏
東京財団政策研究所 主席研究員 藤田 卓仙 氏

閉会 16:50-17:00

松尾 清一 国立大学法人東海国立大学機構機構長
丸山 彰一 予防早期医療創成センター長 名大附属病院長 医学系研究科 教授

意見交換会

招待講演

10:35~11:45

座長 丸山 彰一 (まるやま しょういち)
予防早期医療創成センター長
名古屋大学医学部附属病院長
医学系研究科腎臓内科学 教授

コロナ禍：我々は何を体験したか、何を体験しようとしているか

先進的研究開発戦略センター (SCARDA) センター長 濱口 道成 (はまぐち みちなり) 先生

今、人類社会は危機的な転換点を経験しつつある。多数の犠牲をもたらしたコロナ禍はもとよりの事、ロシアのウクライナ侵攻、パレスチナ・イスラエルの紛争等、この世界は紛争が連発しつつある。他方、ウクライナ侵攻は世界の穀倉地帯を直撃し、ロシアからのガス輸入が途絶え、エネルギー危機、食糧危機を誘発している。更に、紛争下においても、地球温暖化は確実に進行し、必然的に農業、魚業にそして感染症の分布に大きな影響を来すであろう。

一見これらの危機は、不連続、ランダムに起きているように見える。しかし、実は共通する深い原因を持っている。それは、何か? 「人口の爆発的増加」である。18世紀以来の産業革命とそれに続く食糧増産は、急激な人口増加をもたらした。有史以来、19世紀末までは10億人を越えることのなかった世界の人口は、2050年には約92億人に達しようとしている。その結果、資源的にも、空間的にもそして環境的にも、生存圏としての地球は限界に近づきつつある。更に、人口の爆発的増加による環境破壊は、様々な危機を誘発しつつある。そして、その危機の連鎖の中にコロナ禍がある。

何故、人口爆発がパンデミックの原因となるのか。20世紀後半から多発しているパンデミック (ラッサ熱、エボラ、マールブルグ病、サース、ニパ、そしてコロナ等) は、密林に閉じ込められていた「人獣共通感染症」が、密林の破壊によって人類社会に解き放たれたものである。一説に、地球上に存在するウイルスは、160万種とも推定されており、その半数が人獣共通感染症の可能性があると示唆されている。他方、熱帯病とされていたデングやマラリア等が、地球温暖化と共に北上しつつある。さて、これら膨大な数の人獣共通感染症、熱帯病の持つ潜在的リスクに、我々はどう対処すべきか。改めて指摘するまでもなく、コロナ禍は、我々に多くの教訓を示している。本講演では、コロナ禍で我々が体験した事実を振り返りつつ、今後人類を襲うであろう新たなパンデミック” Disease X” に我々はどう対処すべきか、議論をしたい。



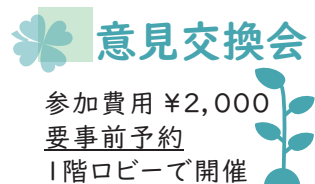
昼食

要事前予約
昼休憩時
1階会議室で配布



コーヒーサービス

1階ロビーで
ポットサービス



意見交換会

参加費用 ¥2,000
要事前予約
1階ロビーで開催

17:15-19:00



パネルディスカッション1

13:00~14:10

モデレーター

吉田 安子 (よしだ やすこ)

予防早期医療創成センター 特任教授

コミュニティファーマシーが拓く次世代の予防早期医療システム

名古屋市立大学 大学院薬学研究科/薬学部 臨床薬学分野/臨床薬学教育研究センター
教授 舘 知也 (たちともや) 氏

株式会社 ユタカファーマシー 薬剤師ソリューション部 調剤教育課 課長 樋上 彰子 (ひがみ あきこ) 氏

株式会社 あまの創健 営業本部 本部長 山本 顕博 (やまもと あきひろ) 氏

一般社団法人 日本セルフケア推進協議会 事務局長 加藤 良仁 (かとう よしひと) 氏

厚生労働省は2015年に「患者のための薬局ビジョン」を発表した。中長期的視点から、薬局が単なる薬の販売所ではなく、患者の健康をサポートする重要な機能を持つべきとしている。このビジョンでは「立地から機能、そして地域社会への貢献」を目指し、病院等の門前という立地に依存するかつての状況から脱却し、患者やひいては地域住民全体の為に、薬剤師の専門性を発揮して地域社会の健康増進に貢献することが求められている。

本パネルでは、ビジョン発表からほぼ10年、単に薬を販売する薬局から、地域社会における健康維持・増進サービスを提供する拠点として益々期待される薬局の役割について、薬剤師の人材育成の視座も交えて整理・俯瞰する。続いて実際に薬局機能を推進する立場からその社会的効果とコストを分析し、デバイスによるコミュニケーションツールも含めた持続可能なシステムとしての必要条件を議論する。

一方、保険者の視点から、適正服薬の対応としてスイッチOTC薬を推進する背景について触れ、その取り組みの具体例について紹介、薬剤師との連携の重要性についても言及する。更に地域社会と連携した事例として、岐阜県で薬剤師が喫茶店に出向いて取り組むモーニングプロジェクトの活動を取り上げる。

以上を踏まえて、薬局・薬剤師が地域社会とともに推進する予防の実践を通じて、未来の「コミュニティファーマシー」のあり方を考える。

パネルディスカッション2

14:15~15:25

モデレーター

大山 慎太郎 (おおやま しんたろう)

予防早期医療創成センター 准教授

スマートセンシングによって解明する生体ダイナミクス

名古屋大学 大学院工学研究科 先進プロセス工学 准教授 藤原 幸一 (ふじわら こういち) 氏

産業技術総合研究所 センシングシステム研究センター 竹井 裕介 (たけい ゆうすけ) 氏

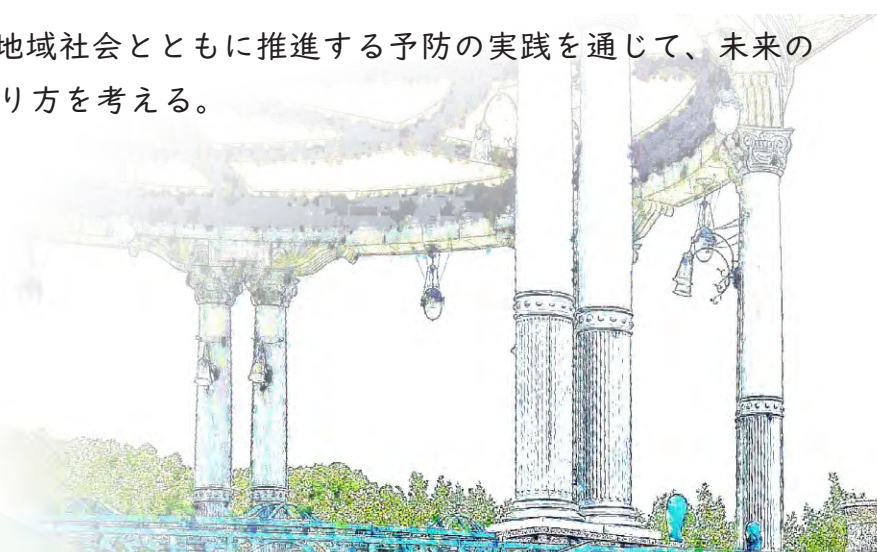
名古屋大学 大学院医学系研究科 特任教授 下田 真吾 (しもだ しんご) 氏

豊田合成株式会社 新価値事業本部 主監 藤原 武史 (ふじわら たけし) 氏

本パネルシンポジウムでは、医療AI、個別化医療、デジタルセラピューティクスといった新領域で注目される「スマートセンシング技術」の知見を共有し、その実装に向けた課題や可能性を議論する。スマートセンシング技術は、日々の体の状態をリアルタイムで計測し、より効果的かつ個別化された医療ケアを実現するだけでなく、新しい疾患概念や治療方法の発見にも繋がる可能性がある。

「ウェアラブルセンサを用いたレビー小体型認知症の早期検出」では、レム睡眠行動障害(RBD)のスクリーニングシステムを通じ、レビー小体型認知症やパーキンソン病の早期診断と治療の可能性を探る。「センシングスマートウェアの開発」では、柔軟なドライ電極を用いた心電図計測技術の革新と、その高精度なノイズ抑制手法を紹介する。「カフ型アレイ筋電計による選択的筋活動制御」では、深部筋活動推定アルゴリズムを用い、不随意運動の原因筋を特定し治療に応用する方法を提案する。「e-Rubberによるソフトセンシングを用いた疾患予測/ヘルスケア開発」では、ゴム由来の柔軟なセンサを活用した疾患予測技術や医療機器承認に向けた挑戦を発表する。

本シンポジウムでは、これら最新技術が医療現場にもたらすインパクトと、それにより実現する未来の医療像を参加者と共に描きたい。



パネルディスカッション3

15:30～16:40

モデレーター

松本 健郎（まつもと たけお）

予防早期医療創成センター 教授

健康・医療と次世代情報工学

メタデータ株式会社 代表取締役社長 野村 直之（のむら なおゆき）氏

国立情報学研究所 教授 山田 誠二（やまだ せいじ）氏

東京財団政策研究所 主席研究員 藤田 卓仙（ふじた たかのり）氏

本パネルディスカッションでは、「健康・医療と次世代情報工学」をテーマに、生成AI次世代情報工学が健康・医療分野に与える影響や課題について議論を深める。

パネリストとして、メタデータ株式会社 代表取締役社長の野村直之氏、国立情報学研究所 教授の山田誠二氏、東京財団政策研究所 主席研究員の藤田卓仙氏をお招きし、それぞれ15分間の講演をいただく。講演では、AI、ビッグデータ、ナレッジマネジメント、知的インタラクティブシステムなど次世代情報工学の進展が医療現場やヘルスケアサービスにもたらす具体的な活用事例や研究成果、さらには社会実装における課題とその解決策についてご紹介いただく。

続くパネルディスカッションでは、産業界、学术界、政策研究それぞれの立場から、これらの技術革新が医療システムに与える可能性や持続可能で包括的な医療の実現に向けた条件などについて議論を行う。時間が許せば情報工学を活用した医療サービスの効率化や、個々の患者に最適化されたヘルスケアの実現といったテーマについても考え、現場の課題や社会的影響に焦点を当てる。

本イベントは、次世代情報工学の可能性と課題を探る場となり、参加者の皆様に新たな知見と将来への洞察を提供することを目指す。

会場案内

会場

名古屋大学
野依記念
学術交流館
2階カンファレンスホール
〒464-8601
名古屋市千種区不老町



アクセス

名古屋市地下鉄
名城線名古屋大学駅
2番出口より徒歩7分



野依記念学術交流館

